

# あだちなみ

今回お話を伺ったのは、絵本作家のあだちなみさん。  
大人気絵本『くまのがっこう』シリーズの誕生秘話や、  
あだちさんの思いをお聞きました。



## ずっと長く、愛される絵本に

—— 絵本作家を目指していたのですか？  
まさか絵本作家になるなんて、まったく思っ  
ていなかったです。本当に、人生は何が起る  
か分からないですね。絵を描いたりものをつ  
くったりすることがずっと好きで、どんな流  
れのままにたどり着いた感じです。

美術大学に進み、卒業後は子どもの頃から大  
好きだった着せ替え人形がきっかけで、玩具  
メーカーに就職しました。

—— 最初に担当した仕事は？

シュタイフという、ドイツのティンペアメー  
カーがあるのですが、私が就職した会社は当  
時、その日本の輸入代理店の仕事もしていま  
した。私はその部署に配属され、お店で販売する  
商品のデザインなどを担当していました。

思わぬ部署に配属されましたが、そこではテ  
ィンペアに出会うことができました。古いテ  
ィンペアがたくさん置いてあり、それが本当に  
すばらしいものだったのです。一つ一つ丁寧に  
手づくりされていて、中には木くすが入って  
いたりして……。実際に本物のティンペアを間  
近で見た経験は、この先に繋がることになりま  
した。

—— 『くまのがっこう』制作のいきさつは？

『くまのがっこう』の絵本は、最初は会社の  
仕事として描き始めました。なので、絵本作家  
にどうやってなるのか聞かれても、私のパター  
ンはあまり参考にならないかもしれません。

『くまのがっこう』が生まれた最初のきっか  
けは、長く愛されるキャラクターを生み出そう  
と試みたことでした。長く続くものとは何か考  
えたと、それは絵本だという結論に至ったの  
です。

## ジャッキー

『くまのがっこう』の主人公。11匹の  
お兄ちゃんたちが大好きな、おしゃれ  
でがんばりやな女の子。



です。子どもの頃に読んだ絵本は、大人になっ  
てまたその子どもが読んだりしますよね。絵本  
がそうやって受け継がれて愛されるものなら、  
そこから出てきたキャラクターもずっと愛され  
るのではないかとということで、まずは絵本をつ  
くることになりました。

私はティンペアに詳しくだったので、ティンペ  
アを描いてみるように言われました。たくさん  
描いたティンペアの絵を見て、じゃあ学校がい  
いねということでも『くまのがっこう』が始ま  
りました。まさか二十年近く続くとは、そのと  
きは考えていませんでした。

今では絵本だけではなく、いろいろな商品が  
つくられるようになりました。多くの人の手で  
商品が世に出されて、かわいがってもらえるよ  
うになることは、本当にすごいことです。で  
も、それだけではただの「キャラクター」に  
なってしまいます。だから、絵本だけは聖域と  
いうか、元になる絵本は大切にしたいです。  
ジャッキーは意思をしっかりと持った一人の  
女の子。ジャッキーが住んでいる世界で、ちゃ  
んと生きています。だから、作品として大切に  
つくられていて、また、アートとしても成り立  
つようなものを目指しています。

商業的な企画から始まった絵本制作ですが、  
何もなかったところから、世の中に存在するも  
のをつくり出すことができました。この貴重  
な機会に出会えたことを大切に、私自身  
はふれずに作品づくりをしていこうと思ってい  
ます。

—— 今後実現させたいことは？  
私はまだ自分一人で絵本をつくったことがな  
いので、「あだちなみ作」の絵本を出したいと  
思っています。今はそれを目標に、マイペー  
スに準備中です。

## 言葉がなくても、きくと伝わる

—— 今後実現させたいことは？  
私はまだ自分一人で絵本をつくったことがな  
いので、「あだちなみ作」の絵本を出したいと  
思っています。今はそれを目標に、マイペー  
スに準備中です。

—— 「絵本で伝えたい思いがない」とは？

「伝えたいことがないのではなくて、ひとはひ  
と、私は私、とどうしてかしょうか。なかなか  
難しいですね。」

—— 絵を描いているときはどんなことを考え  
ますか？

「『くまのがっこう』の『くまのがっこう』は何か  
あります。それより、言葉になる前の感覚の  
よんなものを大切にしたいです。たとえば春の  
若い葉っぱが、黄緑色がまばらしている感



じと、そのときの空気やにおい。あとは、冬の  
空って真っ暗なんだな、という感覚。こうした  
感覚は、私が子どもの頃に体で感じたことで、  
今でもずっと残っています。きくと、人それぞ  
れ感じたことがあるのではないのでしょうか。  
そして、自分の好きなものは何か、考  
えたりもします。他の人がどうかと考えず  
に、私だけならどう感じるか……。広告の仕事  
ならその目的に合わせてますが、自分の作品は全  
部自分が好きなものにしたいです。たとえば、  
すべて自分の好きな色遣いにしないと気が済ま  
ないんです。「この色はこの色が合うから」み  
たいな、理屈ではない感覚を大切にしています。  
あとは小さな、小さな気遣い。荷物に貼られ  
たガムテープが、手ではなくハサミで切って  
あったりすると、それが届いたときに、この人  
はこういうところに気を遣っているんだと思  
いますよね。そういうちょっとした気遣いが、い  
ろいろな場面で上品さや美しさに繋がると思っ  
ています。品があり美しいもの、これも私が大  
切にしていることです。

## 心の中は、ぶれない自分で

—— 大学生へのメッセージをお願いします

こうあるべき、というものはありません。自  
分の持っている感覚を大切に、愉快地楽しく生  
きてほしいです。堂々とね。

—— 先程も仰っていた「くまがあるべきものがな  
い」とは、

別に何も決まっていなくて、ということだ  
す。人としてのルールは守らないといけない  
が、誰かの「いい」が自分の「いい」とは限り  
ません。たとえ周りに合わせる必要があったと  
しても、心の中ではぶれない自分でいられたら  
いいのではないかと思います。

その人にしかできないことが、きくとありま  
す。「私は料理ができないけれど、あの人は料  
理ができる」というように。自分ができないこ  
とをできる人がいて、その人ができないことは  
自分ができるということです。そういうところに、敬  
意を持ち合えたらいいなあと思います。大人に  
なっただけで、それが大切だと実感しているん  
です。



—— あだちさんにしかできないことは？

悩みますね……。でも、ジャッキーを描く  
ことは私にしかできないと思ってます。世  
界中で、私だけです。ずっと、ちゃんと、私  
がジャッキーを描き続けていこうと思ってい  
ます。

—— ありがとうございました

## あだちなみ

岐阜県多治見市出身の絵本作家。多摩美術大学  
グラフィックデザイン専攻卒業。玩具メーカーに  
就職後、2003年に独立する。『くまのがっこう』  
や『くまのこみん』シリーズなどの作画を手掛  
ける。現在同大学で非常勤講師も務めている。

